平成25年(2013)
阿づまの光
9月号・Septembro

五代教主作　灰釉茶盌　銘「冠島（かんむりじま）」
（金龍海冠島土・本宮山松釉）

題字出口直日
通巻第534号
発行 大本東京本部
東京宣教センター
センター長 浅田秋彦
〒110-0008
東京都台東区池之端 2-1-44
TEL（IP） 050-5510-9502
03-3821-3701
FAX 03-3821-5283
URL http://oomoto-tokyo.com
Mail tokyohonbu@oomoto.or.jp

祝詞は最妙最奥の無線電話器！

祭務課長　和田桂一

私たちは日々、ご神前にて祝詞を奏上しています。

この祝詞について聖師さまは、

『祝詞は最妙最奥の無線電話器である。換言すれば神人感合の霊話器である。それで霊話器はなるべく完備を要すと同時に使用者も亦使用の訓練を要す』

とご教示くださっています。

ということは、私たちが祝詞を奏上し始めたとたん、自動的に〝無線霊話器〟が掛かり、「あっ、もしもし神さまですか!?　〇〇です。実は、今日は・・・・」という調子で始まるかはともかく・・・・、祝詞は〝神人感合〟状態をより深め強めて、さらなる高みへと導いてくれる、最も身近にある最強ツール（道具）のひとつだと言えます。

さらに聖師さまは続けて、

『祝詞は神々に御活動下さるように祈請（きせい）するのである。それでただ機械的にあげておるのは全く蝉が鳴いているのと同じで、ただ囀（さえず）るだけのようなものである。これでは本当の信仰という事はできないのである。又ダラダラベラベラと奏上するのもよくない。祝詞は神々様にお誓いの言葉であり、感謝祈願の言霊である故どこまでも敬虔の態度をもって、明るい陽的な言霊でなければならない』

とご教示くださっています。

〝果たして、日々その〝無線霊話器〟に出てくださる神さまは、何神さまなるや・・・・!?〟の心配はともかく、右のお示しを祝詞奏上の心の物差しにしたいと思います。しかし、分かっていても意外に難しいことも、皆さんよくご承知の通りです。

世は迫り大峠の真っ最中ならばこそ、神々さまに獅子奮迅の御活動いただかねば越しては行けぬところ、次々に湧き上がる雑念と格闘しつつも、しっかりと手に祝詞を持って、あくまでも〝明るい陽的な言霊〟発射を旨として、一回一回の祝詞奏上に心して取組ませていただきましょう。

※神仏に誓いを立てて、その加護を祈ること

今月の聖言

朝夕（あさゆふ）にいのる吾（わ）が身（み）を幸（さちは）ひて
いや永久（とこしへ）に守（まも）らせたまへ

出口王仁三郎聖師

第123回大本公開講座「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」

出口王仁三郎の預言
―みろくの世の姿―

講師 森（もり） 良秀（よしひで）
（東京宣教センター次長）

みろくとは

本日の講題は出口王仁三郎の預言です。予めではなく、預かるという字を使っています。これは、先のことは神さまのみ手に預けられており、人間の心次第で結果が表れるという意味です。

さて、「みろくの世」とは、キリスト教では「地上天国」であり、神道では「松の世」と表現されています。人類のすべてが嬉し嬉しの世、パラダイスといわれる世界を指します。

〈弥勒〉と漢字で書いて、弥（いよいよ）革（改まる）力となります。

この宇宙は、はじめは何もなかった無の状態から天地が開けて、何十億年もかけて修理固成が進み、今日のようなすばらしい自然環境のもとに、私たちは暮らしています。

神さまは私たち人類を、真善美なる世界に安住させるために、まず太陽をつくり、お月さまをつくり、そしてこの大地をつくり、諸々の星をつくられました。さらに大地には山川草木をはじめ、禽獣虫魚と言われる動物、虫けらも含めて万有を創造し、準備されたのです。この大地を中心とする宇宙がどんどん修理固成され、進歩発展する神業を「みろく」と言います。

王仁三郎聖師は、太陽の光は懐中電灯のように、地球に向かってのみ照らしていると語っています。確かに太陽は明るく輝いています。しかし、人類初の宇宙飛行士は「地球は青かった」と感想を述べていました。地球以外のまわりは闇の世界だったのです。この一事を聞かされても、神さまの地球に住む人類へのお恵みを悟ることができます。

さらに、神さまは海の神、山の神、田の神など、八百万の神をお生みになって万物を守護せしめるようにされました。

こうして考えますと、私たちの日々は、神さまの広大無辺の恩寵の下に生活していることを改めて理解させて頂くことができます。

また一方、人類のたゆまぬ努力によって今日の便利で文化的な生活ができるようになりました。神さまの御恵みと人間の働きによって、いよいよみろくの世が近づき、より良い世の中がやってくるのです。

みろくの世の姿

みろくの世になれば『善い事をすればよくなり、悪い事をすれば悪くなる世』と言われています。

これは夢のような話しです。今日の時代は、一生懸命善い行いをしても、それが結果につながらないことがたくさんあります。むしろ、悪い事をしている者が、金を儲けたり、裕福な生活をしているということさえあります。

開祖出口なおの「お筆先」には、みろくの世は〝水晶の世〟と示されています。まさしく水晶のように、何もかもが見通せる世の中ということです。隠匿をすることは許されないのです

これからは、政治家や経営者のような上に立つ者、中位の者、下位の者をも含めて、すべての人が悪いことをすると隠し通すことは難しく、必ず表に現れてくる厳しい世の中になると示されています。また逆に、善い事をすればどんどん善くなる。これはみろくの世の法則と言っていいでしょう。

みなさん、死後の世界の天国を一言で言い表すと、どういう言葉がふさわしいでしょうか。考えてみてください。

私はこう思うのです。天国というところは悪意のない善意の国だと思います。自分の都合で善悪を言うのではなくて、言葉も行為も全てを善意に受け取る国。

みろくの世の姿の善い事をすれば良くなることと、天国天人の行為や行動、また心のあり方を善意に受け取ること、この二つは共通しているように思います。

お互いが心穏やかに豊かな気持ちで、日々の生活を送れるようになる、これがみろくの世の姿です。

みろくの世到来の前に

穏やかな心を持つことは『天変地異や戦争がなくなる』ことにもつながります。

天変地異には、「大三災」と「小三災」があります。大三災は、風水火の自然災害のことで、台風、洪水・津波、火山・地震です。小三災は、飢病戦と言って、飢餓、病気、戦争のことです。こちらは人間の英知と努力によって、抑えることが出来ます。

神さまは、人民の改心が遅れると、みろくの世の前に、大峠が来ると警告されました。そのために開祖は『世の大難を小難に、小難を無難に』とひたすらお祈りされました。

王仁三郎聖師は、『大三災小三災の頻発も人の心の反映なりけり』と教えています。われよし強いもの勝ちの心、神さまの存在を認めず、物質万能主義の考え方。この二つが世の中の「空気」をおかしくしています。この空気が、大三災までも誘発していると思われます。

みろくの世の住人

みろくの世は、貧富の差が少なくなることが大きな眼目の一つです。もちろん日常の生活はより文化的になり、ライフラインも充実され何かにつけて便利な世の中であると示されています。

一方私たち自身が、みろくの世の住人となるための資格を備えなければなりません。そのためには、自己の内面、すなわち霊魂（たましい）を研くことが肝心です。

人には心があります。心の奥にあるのが霊魂です。心の働きを司るのが霊魂です。

この霊魂は、一霊と四魂から成り立っています。一霊は「直霊（直日の霊）」と言い、最

も清らかで、反省力のある魂で、霊魂の本体です。四魂は、荒魂、和魂、幸魂、奇魂の四つを指し、本体に対するハタラキです。

荒魂は、何事も勇気を持って前に進めて行く働きがあり、勇魂とも言います。

和魂は、皆と和合し、協調していこうとの働きがあり、親魂とも言います。

幸魂は、人との絆、また動植物を、愛情を持って育てる働きがあり愛魂とも言います。

奇魂は、物事を正しく判断し、本質を見極める力があり、智魂とも言います。

また直霊は「省みる」、荒魂は「耻じる」、和魂は「悔いる」、幸魂は「畏れる」、奇魂は「覚る」の五情の働きを併せ持っています。

大本祝詞の「四魂と五情の全きはたらきによりて大御神の天業に仕えまつるべく」と示されている如く、各自は身魂相応に一霊四魂を磨かせていただかないと、みろくの世の住人になるのは難しいようです。

三つの要素

私は数年前、一般の方を対象とした講演会で、講演後質問を受けました。「はたして宗教の力で平和は来ますか」と厳しい口調でのお話でした。私は「宗教は大切です。しかし宗教の力だけでは駄目だと思います。安定した政治と、経済、この三つの要素が必要だと思います」「宗教、政治、経済は鼎の三本足に当たります。鼎のバランスを失うと上にのせてある〈世界平和〉というお皿がひっくり返ります」とお答えしました。

このバランスは大事だと思います。宗教が突出すると、中東の一部のイスラム過激派のように聖戦と称して紛争が起こると困ります。また、経済が突出しますと、一時の日本のような物質万能主義に走るのも困ります。そして政治が突出しますと、中国や北朝鮮のような一党支配で国民が苦しみ、これまた困るわけです。この三つの要素が見事なバランスの上に立ってはじめて、世界の人類は平和を享受することが出来ます。取り分け経済の安定は重要な問題であると思います。

みろくの世の政治

王仁三郎聖師は政治の根本は、まず天地の神を祭祀しなければいけないと説いています。神さまのみ心を政治（まつりごと）に反映していく。丁度祭祀と政治は、天秤棒のように釣合うことにより〝祭政一致〟が生まれます。

ただし、政教は分離しないといけません。特定の宗教教団に対して国や地方公共団体が経済的援助をする、あるいは利益に当たる行動をすることはあってはならないのです。

日本の伝統スポーツである、空手や剣道などは、礼に始まり礼に終わります。これは、みろくの世の政治の姿でもあると思います。武道をするスポーツ選手は、試合の前後に相手に敬意を込めて頭を下げます。政治家や行政官も、一日の仕事の始まりと終わりに天地の神さまに、感謝と祈願を捧げる。

天地の神とは、古事記の天之御中主神です。現代の科学者は、「サムシンググレート」と表現しています。宗教界では統一した呼び方として「至高者」と表現しています。

大本には、万教同根という教えがあります。すべての宗教の源は、一つの根っこから始まり、そこから幹が育ち、枝が分かれて、いろいろな宗教が生まれました。そこに名前がついただけで、元は同じであるという教えです。

宗教、宗派の違いは問題ではなく、天地の神さまを祀って、そのご守護のもとに政治を進めていくということが大切です。

天産物自給

日本は、お土から上がりたもので十分やっていける、天産物自給のできる国であると教えられています。また王仁三郎聖師は、世界を十二のブロックに分ける構想を打ち出しました。食料はそのブロックで生産し、消費する、地産地消の大型版と言えるかもしれません。

以前、島根県隠岐島に参りました時、信徒さんの家に泊まらせていただきました。その折、その家の年配のご婦人が、「ここはお金がなくても生活できるんです。家の前にある田んぼや畑でお米も野菜も取れます。蛋白源は、目の前の海で獲れる魚です。このワカメや海苔などの海藻も採れます」と話されました。

私もそこで数日間、自給自足の生活を体験しました。

無尽蔵のエネルギー

次に、大変大事なエネルギー問題です。経済の根幹は動力源だと言われます。

みろくの世までの過渡期として今日、化石燃料、原子力が利用されていますが、このたびの福島第一原子力発電所の事故をきっかけに、新エネルギー開発の必要性が言われています。

いわゆる太陽光発電、地熱発電、風力発電、あるいは水力発電、潮力発電、海流発電などの再生可能エネルギーを利用する取り組みです。これらは、クリーンエネルギーであると共に無尽蔵な資源といえます。

また最近の報道によりますと、米国ではシェールガス革命が起こっています。天然ガスであるシェールガスを利用した火力発電所は、コストが下がり、相対的に原子力発電のコストが高くなることにより、今米国では多くの原発が廃炉に追い込まれているそうです。

日本でも、日本海域の海底に「メタンハイドレート」という天然ガスが埋蔵されていて、日本の国で一年間消費する天然ガスの一〇〇年分あるということがわかっています。いよいよ試験採掘が始まろうとしていますが、これが利用できるようになれば、日本は資源大国になるかもしれません。

しかし、これらの資源は有限です。聖師が示されたエネルギー論は、この宇宙間にある神霊原子の精気から電気を発生し、万有活動の原動力となっていると示され、さらにみろく神政出現の暁には、不増不減の「霊気」をもって電気に代えると預言されています。

その他に、みろくの世の交通・通信、教育、労働などたくさんの未来予測をのこしていますが、これらはおそろしいほどの適確性を持っていると言えます。またそこには、単に預言・警告するだけではなく、いかにしたら人類が救われ、世界を立直すことができるかという救済の思いに満ちています。

私たちは、神さまのみ心、み旨にもとづいて心を改め、行いを改めるならば、みろくの世の実現は可能となるでしょう。しかし、改心が見られず、われよし強いもの勝ちの、物質万能主義の道を歩むならば、聖師王仁三郎が最も憂える人類の大峠を迎えることになります。

東光苑月次祭

東光苑月次祭は八月十一日、午前十時三十分から、斎主・森良秀東京宣教センター次長のもと執行され、三百四十人が参拝した。

祭員は福島・群馬・栃木・山梨・東京・神奈川主会、少女祭員は神奈川主会の星田夏音さん、佐保さんの姉妹と東京主会の土方清身さん、榎戸真弥さん、伶人は宮咩会関東支部、大本神論拝読は中嶋浩山梨主会長、添釜は高野社中の皆さんがそれぞれ担当した。

祭員ご奉仕の福島・群馬・山梨・東京・神奈川主会のみなさん

祭典後、東京本部を代表して浅田秋彦東京宣教センター長があいさつにたち、はじめに去る八月七日、聖地・天恩郷で執行された「瑞生大祭」の意義と、聖師さまの偉業を紹介。続いて『大本神論』と聖師さまのご教示を引用し、みろくの世の住人になるために求められる身魂磨きの重要性を説き、「ご神書拝読などの自己研さんだけでなく、神業奉仕に仕えることで、身魂磨きができる」と強調した。

続いて「『一つの世界』実現のために（エスペラント活動）」をテーマに、浅田センター長が月次祭講話を行い、大本がなぜ国際共通語エスペラントを奨励しているのかなど、意義や今後の展望を説いた。

千葉主会の奉納では、参拝者も一緒になって「ふるさと」を歌った

次いで奉納行事が行われ、千葉主会の皆さんが愛善歌「瑞声」と唱歌「ふるさと」を奉納した。

直会後、館内では直心会福島連合会と東京連合会がバザーを行った。

第22回家庭平安祈願祭

日　時　10月19日（土）午前10時30分執行
場　所　大本東京本部3階ご神前
申し込み　申し込み希望者は信徒・一般を問いません。ご本人に代わっての申し込みも可能です。所定の申し込み用紙に必要事項を明記の上、祭典玉串（任意）を添えて、所属の機関、または東京本部祭務課までお申し込みください
申込締切　10月14日（月）必着
その他　ご祈願は祭典後1週間執り行います

出口なお・王仁三郎の世界を語る2013

第百二十六回大本公開講座『出口なお・王仁三郎の世界を語る2013』は、八月二十一日午後七時から八時三十分まで、港区新橋の航空会館において開催され、浅田秋彦東京宣教センター長が「『あの世』を知って生きる～人は死なない～」と題して講演を行った。参加者は十一人（内、一般二人）。

死後の生活に備えて、今の生活を励まなければなりません

講座では、霊とはどういうものかにはじまり、続いて科学者や医師から見た霊界の存在、霊界と現界の関係、そして神界・地獄界・中有界それぞれの組織と生活などについて具体的に解説。「生きている間に霊界の存在や消息を知ることで、死に対する不安が和らぐとともに、今をより良く生きることの大切さを知ることができる」と結んだ。

み教えを正しく取り次ぐために
教本2級認定講習会

日　程　10月26日（土）午前9時より受付
～27日（日）午後3時30分ごろ閉講予定
会　場　東光苑（大本東京本部・東京宣教センター）
参加資格　教本3級取得者
※関東教区在住で教本3級を取得されている方には、後日参加募集要項を郵送します
参加費　2,200円（食事・宿泊費）
※「実践リーダー教本『中級編』」（700円）をお持ちでない方は別途お買い求めください
持ち物　教本『中級編』、筆記具、着替え、洗面具
定　員　40人（宿泊定員）　※通い参加も可能です
締　切　10月19日（土）

東光苑祭典・行事予定

9月

8日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭（長寿感謝祭）
秋季合同慰霊祭

11日（水）午後7時執行
全国一斉世界平和祈願

18日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　芸術は宗教の母なり
～宗教即生活即芸術～
講師　田辺謙二（大本120年事業事務局主幹）

23日（月）午前10時30分執行
三代教主毎年祭（23年）

28日（土）29日（日）
東光苑秋季祭式講習会

10月（クリーン月間）

13日（日）午前10時30分執行
東光苑月次祭・市杵島姫命例祭

16日（水）午後7時～8時30分
「出口なお・王仁三郎の世界を語る2013」
講題　普遍の真理「四大主義」
～宇宙の呼吸・宇宙のリズム～
講師　森良秀（東京宣教センター次長）

18日（金）午後7時
第46回「霊界物語」全国一斉拝読会

19日（土）午前10時30分
第22回家庭平安祈願祭

26日（土）27日（日）
教本2級認定講習会